

ハングル入力練習教材と韓国のことわざ

鄭 芝淑

1. はじめに

筆者は2004年に日本と韓国でことわざがどの程度知られているか、ことわざの認知度を調査した。その結果、日本においても韓国においても年齢層が高くなるほどことわざの認知度が高くなる傾向があるが、若年層（中高生，大学生）においては日本より韓国の方がかなり認知度が高いということが明らかになった。その際、日韓の若年層のことわざ認知度の違いの理由として、韓国の若者がよく使っていると思われるハングル入力練習教材にことわざが用いられているためではないかと推測した。本稿は、その推測が正しいかどうかを確かめるために、ハングル入力練習教材にどのようなことわざが用いられているか、その中に認知度テストの素材としたことわざがどの程度含まれており認知度テストの結果との関連性はあるかどうかを分析するものである。

2. 認知度調査

2004年に日本と韓国で行った認知度調査は、日本と韓国のことわざスペクトルリスト（PS リスト）に基づいて客観的に選ばれたそれぞれ25件のことわざに関して、それぞれの前半部だけを示し後半部を書かせるという後半部補充式の調査を行った。¹⁾ 調査対象に選ばれた韓国のことわざを次に示す。（ ）内を空所にして調査用紙を作成した。

表1：調査対象とした韓国のことわざ〔Nは問題番号，PS欄の数字はPS度数を表す〕

N	ことわざ	PS
K1	가재는 (게 편이다) [ザリガニは (カニの味方)]	28
K2	마늘 도둑이 (소도둑 된다) [針泥棒が (牛泥棒になる)]	27
K3	믿는 도끼에 (발등 찍힌다) [信じていた斧に (足の甲を斬られる)]	27
K4	마늘 가는 데 (실 간다) [針行くところ (糸も行く)]	25
K5	발 없는 말이 (천리 간다) [脚のない言葉が (千里行く)]	26
K6	눈 가리고 (아웅한다) [目を蔽うて (ニャオという)]	26
K7	말 많은 집은 (장 맛도 쓰다) [口数の多い家は (醤油の味も苦い)]	21
K8	무소식이 (희소식이 다) [便りのないのが (よい便り)]	20
K9	벼룩도 (낮짝이 있다) [蚤も (面を持っている)]	23
K10	언 발에 (오줌 누기) [凍えた足元に (小便かけ)]	22
K11	안되면 조상탓 (잘 되면 제 탓) [うまくいかなければ祖先のせい (うまくいけば自分の手柄)]	24
K12	도둑맞고 (사립문 고친다) [盗まれて (萩の戸を直す)]	17
K13	두부 먹다 (이 빠진다) [豆腐食べて (歯が抜ける)]	15

K14	사또 떠난 뒤에 (나팔 분다) [殿様去って (ラッパ吹く)]	22
K15	임도 보고 (뽕도 탄다) [君にも会うし (桑も摘む)]	17
K16	개똥이 무서워서 피하나 (더러워서 피하지) [犬の糞が怖くて避けるか (汚くて逃げるものだ)]	26
K17	느릿느릿 걸어도 (황소 걸음) [のろのろしても (赤牛の歩み)]	21
K18	못 먹는 잔치에 (갯만 부순다) [食べられない宴に (笠つぶす)]	10
K19	장사가 나면 (용마가 난다) [壮士出でて (竜馬出ず)]	16
K20	콩밭에 가서 (두부 찾는다) [豆畑で (豆腐を求める)]	10
K21	냉수 먹고 (속 차려라) [冷や水飲んで (冷静になれ)]	—
K22	노루를 피하니 (범이 나온다) [ノロシカを避けると (トラが出る)]	14
K23	눈 먼 자식이 (효도한다) [目の見えない子が (孝行する)]	8
K24	잔병에 (효자 없다) [軽い病に (孝子なし)]	7
K25	흐르는 물도 (떠 주면 공덕이다) [流れる水も (汲んでやれば功德)]	20

調査は2004年4月から8月にかけて日本と韓国で行った。両国の回答者数およびその年齢層別の内訳は次の通りであった。

表2：回答者の内訳〔単位：人〕

区 分	日 本			韓 国		
	女性	男性	計	女性	男性	計
中学生	61	57	118	10	90	100
高校生	58	57	115	95	19	114
大学生	65	52	117	82	22	104
～49歳	72	29	101	26	90	116
50歳～	60	40	100	35	42	77
合 計	316	235	551	248	263	511

各ことわざを1点満点として回答結果を採点し、²⁾ 合計点を認知度指数とみなすことにした。ただし、調査終了後に K21 に対して複数の回答が可能であることが分かったため、これを集計から除外した。

日本の調査対象のことわざの中にも複数回答の可能なものが1件あり、また、日韓それぞれの調査対象の中に、PS リストの異形処理が不十分であったために PS 度数に間違いがあることが判明した。そのため、これらについても認知度指数の算定から除外し、しかるべき補正を行い日韓両国の年齢層別のことわざ認知度指数を算出した。

表3：年齢層別認知度指数

区 分	日 本	韓 国
中学生	6.17	8.33
高校生	7.27	8.73
大学生	7.43	8.31
～49歳	11.36	12.77
50歳～	14.65	13.23
全 体	9.12	10.16

この結果から、日韓ともに年齢層が高くなるほどことわざ認知度が高くなる傾向があるが、若年層においては韓国の方が若干認知度が高いように思われると判断した。そして、この結果が正しいとすれば、その原因は韓国の若年層のほとんどが PC に初めて接する際にハングル入力練習用教材にことわざが練習素材として用いられていることにあるのではないかと推測したのである。

なお、2004 年の認知度調査に様々な不備があったことの反省に基づき、2009 年 6 月から 7 月にかけて、様式を変えて認知度の再調査を行った。PS リストに基づいて選ばれた 2 セット（各セット 60 件ずつ）のことわざに関して、一語補充式で回答を得るという様式である。日本の調査に関してはすでに鄭（2009）にその分析結果を発表したが、韓国の調査は現在集計の作業中であり、本稿の考察には利用できなかった。

3. ハングル入力練習教材のことわざ

韓国では初めて PC に接する人のために、ハングル入力練習用の PC ソフト教材が無料で提供されており、自由にダウンロードして使えるようになっている。2009 年 7 月 7 日現在、そのような無料入力練習教材が 7, 8 点提供されているが、2004 年に認知度調査を行った当時においては、次の 3 点があった。

『general typing』

『뽁뽁이 타자 (ポッポギ・タイプ) v1.0』

『한메 타자교사 (ハンメ・タイプ教師)』

これらの教材は大体同じような構成をしている。文字あるいは単語単位での字母練習から始まって、短文練習、長文練習と進み、入力の速さと正確さを訓練するためのゲーム形式の練習問題を備えている。その短文練習の素材としてことわざが用いられている。どの PC 教材においても、ことわざは短文練習の素材として表現形式だけが用いられており、その意味内容に関する解説などは一切なされていない。

これらの教材に用いられていることわざの件数は、『general typing』が 1,134 件、『뽁뽁이 타자 v1.0』が 748 件、『한메 타자교사』が 491 件である。しかし、この数は延べ件数である。同じことわざが何度も使われていたり、あるいは次のように、同じことわざの異形が用いられている場合もある。それぞれ⇒の後の形式が代表形である。

호랑이 굴에 잡혀가도 정신만 차리면 살아 돌아온다 / 호랑이에게 물려 가도 정신만
차려라 ⇒ 범에게 물려 가도 정신만 차리면 산다 (虎に咥えられて行っても気を確かに
持っていれば生きられる)

평양 감사도 저 싫으면 그만이다 / 평양 감사도 제가 싫으면 그만이다 ⇒ 평양 감사도

저 싫으면 그만이다 (平壤監司も自分がいやならそれまでだ)
 서당개 삼년이면 풍월을 읊는다 / 서당개 삼년이면 풍월한다 ⇒ 서당개 삼년에 풍월한
 다 (書堂の犬三年すれば風月を詠む)
 살은 쏘고 주워도 말은 하고 못 줍는다 / 화살은 쏘고 주워도 말은 하고 못 줍는다 / 쌀
 은 쏘고 주워도 말은 하고 못 줍는다 ⇒ 살은 쏘고 주워도 말은 하고 못 줍는다 (矢
 は射ても拾えるが言葉は言ったら拾えない)
 될성부른 나무는 떡잎부터 알아본다 / 잘 자랄 나무는 떡잎부터 알아본다 / 푸성귀는
 떡잎부터 알고 사람은 어렸을 때부터 안다 ⇒ 될성부른 나무는 떡잎부터 알아본다
 (見込みのある木は餅葉のころから見分けがつく)

これらを整理してそれぞれの入力練習教材に使われていることわざの異なり件数を示すと次のようになる。

表4：入力練習教材のことわざ件数

教 材	延べ件数	異なり件数
『general typing』	1,134	935
『뽁뽁이 타자 v1.0』	748	652
『한메 타자교사』	491	472

これらの教材間でのことわざの重複を調べてみると、3種の教材に共通することわざが443件、2種の教材に共通するものが92件であった。これらの重複を差し引いた3種の教材全体での異なりことわざ件数は1,081件となる。最も素材件数の少ない『한메 타자교사』のことわざ472件のうち93.9%に当たる443件が他の2教材でも用いられており、全体の異なりことわざ1,081件のうち86.5%に当たる935件が最も素材件数の多い『general typing』で用いられているということになる。これはいずれも、各教材が独立に素材を選択したとすれば考えられない重複度であり、素材の選択の際に教材間に参照関係があったことを強く示唆している。ただし、ソフトに関する情報からどの教材がどの教材を参照しているのか、あるいは共通のことわざ集を参照したものであるかどうかを確認することはできなかった。いずれにしても、これらの教材はあくまでもハンゲル入力練習用の教材でありことわざ学習用の教材ではないので、素材の選択にはあまり神経を使っていないと思われる。

次に、3種の教材に用いられていることわざを、韓国のPSリストの観点から考察してみよう。複数の教材に共通に用いられていることわざ535件に限って、韓国版PSリスト Ver.2006に照らしてその分布状況を見ると、次の表のようになる。

表 5 : PC 教材ことわざの PS リストにおける分布

	3 種に共通	2 種に共通	計
200 位程度まで	81	30	111
500 位程度まで	167	59	226
1000 位程度まで	246	71	317
1000 位程度以下	182	19	201
PS 度数 0 のもの	15	2	17
合 計	443	92	535

中核的なことわざであると考えられる PS リストの上位 200 位程度までのことわざのうち 111 件が複数の教材で用いられていることから、ある程度はよく知られたことわざが選ばれてはいる。しかし、代表的なことわざを選ぼうとした意図はあまり感じられない。なぜなら、1000 位以下のことわざも 201 件と数多く用いられているからである。1000 位以下のことわざと言えば、たいていの人は知らない周辺のなものである。したがって、おそらく 5000 件を超える規模のことわざ辞典を基にして適当に素材を選んだと推測される。注目すべきことは、周辺のなことわざの中から 200 件ものことわざが 3 種の教材に共通して選ばれているという事実である。これは、ことわざの選択に際して参照関係があったことを強く示唆している。

さらに、PS 度数が 0 のもの、つまり、PS リストの作成に用いた 28 点のことわざ辞典のどれにも載せられていないものが 15 件も 3 種の教材のどれにも使われている。具体的には次のようなことわざである。

구두장이 셋이 모이면 제갈량보다 낫다. (靴職人が三人寄れば諸葛亮よりましだ)
 깊은 산에서 목마르다고 하면 호랑이를 본다. (深い山で喉が渴いたと言えば虎を見る)
 남의 것을 마 베어 먹듯 한다. (人の物を長芋を食べるようにする)
 백두산 까마귀도 심지 맛에 산다. (白頭山の鳥も志に生きる)
 봄별에 그을리면 보던 임도 몰라본다. (春の日に日焼けすると見慣れた恋人も見間違える)
 비싼 놈의 떡은 안 사 먹으면 그만이라. (高く売る者の餅は買わなければいい)
 서까래감인지 도릿감인지 모르고 길다 짧다 한다. (乗木の材料か桁の材料かも知らずに長いとか短いとか言う)
 숲도 커야 짐승이 나온다. (森も大きくないと獣が出ない)
 잔치엔 먹으러 가고 장사엔 보러 간다. (宴には食べに行き葬式には見物に行く)
 점잖은 개가 똥을 먹는다. (おとなしい犬が糞を食べる)
 진눈 가지면 파리 못 사귄다? (ただれ目を持てば蠅と付き合えないか)
 짜장은 놈 짜게 먹고 맵장은 놈 맵게 먹는다. (つまらない者は塩辛く食べてきつい者は辛く食べる)
 쭈그리고 앉는 손님 사흘 만에 간다. (居座る客が三日ぶりに帰る)

초고리는 작아도 평만 잡는다. (コタカは小さくともキジを捕まえる)

콩밭에 소 풀어 놓고도 할 말은 있다. (豆畑に牛を解き放っておいても言い分がある)

このようなことわざが多数3種の教材に共通して用いられていることは、素材の選択に関して参照関係があったことを強く示唆している。

先にも述べたようにこれらの教材はあくまでもハングル入力練習用のものであるから、ことわざ素材を選択する際に他の教材を参照したかどうか、あるいは選択が計画的に行われたかどうかは、まったく問題ではない。しかし、選択されたことわざの扱いにかなりずさんな面が見られる。どの教材にもことわざの提示例にかなり綴りの間違いがあるのである。特に『general typing』に間違いが目立つ。次に、具体例をいくつか掲げることにする。下線部が間違いでいずれも括弧内に示したように訂正すべきものである。

고사리도 꺼을 (⇒꺾을) 때 꺾는다. (ワラビを摘むにも時期がある)

빚 (⇒빚) 보증하는 자식은 낳지도 마라. (借りの保証に立つ子は産むな)

안 안심 (⇒인심) 이 좋아야 바깥 양반 출입이 넓다. (家の内の情がよければ旦那の出入りが楽だ)

아는 길더 (⇒도) 물어가라. (知っている道も尋ねて行け)

가랑비 (⇒가랑비) 에 옷 젖는 줄 모른다. (小雨に降られても濡れたことを知らない)

꺅 (⇒꺅) 쓰고 자전거 탄다. (笠をかぶって自転車に乗る)

실 엮인 (⇒엮킨) 것은 풀어도 노 엮인 (⇒엮킨) 것은 못 푼다. (糸の縛りは解けても紐の縛りは解けない)

단단한 땅에 물이 꺼단 (⇒꺼단). (堅い地面に水がたまる)

굵은 배 (⇒베) 가 옷 없는 것보다 낫다 (⇒낫다). (厚い布地でも裸よりましだ)

굴뻑이 (⇒굴뻑이) 도 떨어지는 재주가 있다. (セミの幼虫でも身をよじる才能はある)

꿀단지 꺼 (⇒꺼) 핥는다. (蜂蜜の壺の外側を舐める)

내 얼굴에 침 뱉기 (⇒뱉기). (自分の顔に唾を吐く)

누워서 침 뱉기 (⇒뱉기). (あお向きに寝て唾を吐く)

눈 코를 세 (⇒뜯 세) 없다. (目を開けたり鼻の穴を広げたりする暇もない)

늦게 (⇒늦게) 배운 도둑질 날 새는줄 모른다. (年取ってから覚えた泥棒は夜が明けるのもわからない)

달면 삼키고 쓰면 뱉는다 (⇒뱉는다). (甘ければ飲み込み苦ければ吐き出す)

닭 쫓던 (⇒쫓던) 개 지붕 처다본다 (⇒처다본다). (鶏を追いかけた犬が屋根ばかり見上げる)

도둑놈 개 구짖듯 (⇒꾸짖듯). (泥棒が犬を叱るよう)

돌다리도 두들겨 (⇒두들겨) 보고 건너라. (石橋も叩いてみて渡れ)

땅 짚고 해엄 (⇒해엄) 치기. (地面に手をついて泳ぐ)
 떡 방아 소리 듣고 김치국 찾는다 (⇒찾는다). (餅をつく音を聞いてキムチの汁を探す)
 도랑치고 가재 (⇒가재) 잡는다. (溝の掃除をしてザリガニを捕る)
 미운놈 떡 라나 (⇒하나) 더 준다. (憎い子に餅を一つよけいに渡す)
 큰 방축 (⇒방죽)도 개미 구멍으로 무너진다. (大きい堤も蟻の穴から崩れる)

このような初歩的な綴りのミスが素材に含まれていることは、いくら入力練習のための教材であると言ってもやはり重大な問題である。最近、韓国の若者の間ではメールやチャットで正書法を無視した綴りで書くことが流行しており、国語教育にとって深刻な問題となると懸念されている。ハングル入力練習教材のずさんな素材提示がこのような風潮を助長するおそれがあるので、教材提供者の慎重な対応が望まれる。

なお、上の綴りの間違い例のうち最初の3件は3種の教材のすべてに共通するものである。このことも、素材選択の際にかなり安易な参照が行われていることを強く示唆している。

4. 認知度調査の結果との関連性

今年(2009年)の6月に韓国でことわざ認知度の再調査を行った際に、ことわざに関するいくつか項目についてアンケート調査も同時に行った。その設問の中に本稿のテーマと関連するものが3問含まれていたため、まず、その結果を述べることにする。

このアンケート調査の回答者数および年齢層別内訳は次の通りである。

表6：アンケート回答者数

年 齢 層	回 答 者 数
中 学 生	129
高 校 生	148
大 学 生	133
～ 49 歳	108
50 歳 ～	120
合 計	638

本稿で分析の対象とする設問は次の3問であった。

設問5. ことわざ辞典を持っていますか。
1. 持っている 2. 持っていない
設問8. PCタイピング練習プログラムを使ったことがありますか。
1. ある 2. ない
設問9. PCタイピング練習プログラムを利用した際、短文練習の時「ことわざ」に接したことがありますか。
1. ある 2. ない

そして、これらの設問に対する回答結果は次のようであった。

表7：設問に対する回答結果（括弧内の数字は百分比を表す）

	設問5		設問8		設問9	
	1	2	1	2	1	2
中学生	20 (15.5)	109 (84.5)	120 (93.0)	9 (7.0)	93 (72.1)	36 (27.9)
高校生	14 (19.5)	134 (90.5)	144 (97.3)	4 (2.7)	137 (92.6)	11 (7.4)
大学生	16 (12.0)	117 (88.0)	133 (100.0)	0 (0.0)	127 (95.5)	6 (4.5)
49歳以下	7 (6.5)	101 (93.5)	68 (63.0)	40 (37.0)	59 (54.6)	49 (45.4)
50歳以上	7 (5.8)	113 (94.2)	52 (43.3)	68 (56.7)	38 (31.7)	82 (68.3)
全体	64 (10.0)	574 (90.0)	517 (81.0)	121 (19.0)	454 (71.2)	184 (28.8)

設問8と設問9に対する回答結果から、若年層のほとんどがハングル入力練習PC教材を用いており、その過程でことわざに接していることが分かる。2004年に認知度調査を行った時点でも、ほとんど同じ状況ではなかったかと思われる。設問9に対する中学生の回答で「ことわざに接したことがある」が高校生、大学生に比べて顕著に少ないのが若干意外であった。これは、中学生の場合PCとの接し方がネット情報を読むことが主体であってメールの送信など書くことが少ないために、正確に文章を入力する訓練までやらない者が多いということであるかもしれない。

設問5に対して「1：ことわざ辞典を持っている」と回答した者が若年層に多いということも注目に値する。中学生では約6人に1人の割合で「持っている」と回答している。これは、ハングル入力練習教材を通じて多くのことわざに接するが、先に述べたようにその意味についてはまったく解説がなされていないために、意味を確認しようと購入する者が多いのではないかと考えられる。実際、韓国では西暦2000前後の10年ほどの間に集中して、小中規模のことわざ辞典が多数出版されている。この時期は、若年層にPCが急激に普及する時期とほぼ重なっているので、おそらく上の推測のとおりではないかと思われる。

このように若い世代のほとんどの人がハングル入力教材を通じてことわざに接しているということであれば、それがことわざの認知度に影響を及ぼす可能性は十分にある。そこで、2004 年に行った認知度調査の結果をこの観点から検討してみることにする。

2004 年の認知度調査に用いた 25 件のことわざの平均認知度指数は次の表 8 の通りであった。ただし、K21 には複数の回答が可能であったため、認知度分析の対象から除外した。N は問題番号、総合欄は全回答者の平均認知度指数、「新」は新世代（中学生、高校生）の平均認知度指数、「差」は旧世代（50 歳以上）と新世代の平均認知度指数の差を表し、+ の数値は旧世代の方が認知度を高いことを表す。PS 欄の数値は PS 度数を表し、PC 欄はそのことわざが素材として用いられているハングル入力教材の数を表すものである。どの教材にも使われていないことわざは網掛けにした。

表 8：各ことわざの認知度指数

N	中	高	大	～ 49	50 ～	総合	新	差	PS	PC
K 1	0.88	0.96	0.93	0.93	0.75	0.90	0.92	+ 0.17	28	1
K 2	1.00	0.99	0.99	1.00	1.00	1.00	1.00	± 0	27	3
K 3	0.99	1.00	1.00	1.00	0.99	1.00	1.00	+ 0.01	27	1
K 4	1.00	1.00	0.99	0.97	0.99	0.99	1.00	+ 0.01	25	2
K 5	0.96	1.00	0.99	0.97	0.97	0.98	0.98	+ 0.01	26	1
K 6	0.82	0.96	0.92	0.99	0.94	0.93	0.89	－ 0.05	26	2
K 7	0.12	0.28	0.07	0.21	0.05	0.16	0.21	+ 0.16	21	1
K 8	0.99	0.99	0.99	0.98	0.99	0.99	0.99	± 0	20	0
K 9	0.49	0.47	0.45	0.74	0.75	0.57	0.48	－ 0.27	23	0
K10	0.49	0.91	0.82	0.63	0.59	0.70	0.71	+ 0.12	22	1
K11	0.86	0.84	0.83	0.95	0.95	0.88	0.85	－ 0.10	24	0
K12	0.07	0.05	0.03	0.19	0.11	0.09	0.06	－ 0.05	17	2
K13	0.09	0.00	0.02	0.13	0.19	0.08	0.04	－ 0.15	15	0
K14	0.18	0.13	0.13	0.58	0.82	0.35	0.15	－ 0.67	22	1
K15	0.86	0.97	0.93	0.98	0.97	0.95	0.92	－ 0.05	17	2
K16	0.99	0.97	1.00	0.94	0.92	0.96	0.98	+ 0.06	26	1
K17	0.01	0.01	0.01	0.13	0.10	0.05	0.01	－ 0.09	21	0
K18	0.00	0.01	0.01	0.16	0.06	0.05	0.00	－ 0.06	10	0
K19	0.01	0.00	0.00	0.16	0.08	0.05	0.00	－ 0.08	16	3
K20	0.08	0.00	0.00	0.34	0.21	0.12	0.04	－ 0.17	10	1
K21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
K22	0.16	0.23	0.17	0.36	0.42	0.26	0.20	－ 0.22	14	1
K23	0.06	0.11	0.01	0.47	0.58	0.23	0.08	－ 0.50	8	0
K24	0.03	0.00	0.07	0.38	0.66	0.21	0.01	－ 0.65	7	0
K25	0.00	0.00	0.00	0.12	0.55	0.11	0.00	－ 0.55	20	0
計	11.13	11.8	11.3	14.3	14.6	12.5	11.5	－ 3.13		

この結果を見ると、まず、新世代の認知度が高いものはほとんどがハングル入力練習教材のどれかで使われていることが読み取れる。K1, K2, K3, K4, K5, K6, K10,

K15, K16 がその例である。しかし, K8, K11 のようにハングル入力練習教材に使われていなくても新世代の認知度が極めて高いものもある。これら認知度の高いことわざは, K15 を除いてすべて PS 度数が 20 以上のよく知られていると考えられる基本的なことわざである。このことから, PS 度数が高いことわざについてはハングル入力練習教材に使われているいないにかかわらず認知度が高いとも考えられるから, PC 教材の影響があるかどうかは明白ではない。

ハングル入力練習教材に用いられていないことわざに注目して見ると, 上に述べた K8, K11 を除いては一様に新世代の認知度が低い。しかし, これらについても, PS 度数の高低の方が有力な要因であると思われるので, ハングル入力練習教材の影響力に関してははっきりしない。ただし, 新旧世代差の大きい K23, K24, K25 は, 年配者にはかなり知られているが新世代で知っている人はほとんどいない。これらについては, ハングル入力練習教材に登場するかどうかの影響しているのではないかと思われる。

以上のように, 2004 年の認知度調査の結果からハングル入力練習教材の影響があるかどうかを断定することは困難である。影響があるのではないかという予測と矛盾する結果ではないけれども, 積極的に影響力を裏付ける根拠にもなり得ない。その原因は, 調査項目が少なすぎたことにあると思われる。今年 6 月に行った一語補充式の再調査では 120 件のことわざを対象として選んだ。その回答結果の分析が済めば, この問題に関してもう少し確実なことが推測できるかもしれない。

5.3 種の教材に共通のことわざ

参考のために, 3 種の PC 教材に共通して用いられていることわざのうち PS リストの上位 200 位程度に含まれるものを掲げておく。括弧内末尾の数字は PS 度数を表す。

- 우물을 파도 한 우물을 파라 (井戸を掘るにも一つの井戸を掘れ ; 28)
- 가는 날이 장날 (行く日が市日 ; 27)
- 가지 많은 나무 바람 잘 날 없다 (枝の多い木に風のやむ日はない ; 27)
- 기는 놈 위에 나는 놈 있다 (這う者の上に飛ぶ者がいる ; 27)
- 떡방아 소리 듣고 김치국 찾는다 (餅をつく音を聞いてキムチの汁を探す ; 27)
- 바늘 도둑이 소 도둑 된다 (針泥棒が牛泥棒になる ; 27)
- 백지장도 맞들면 낫다 (白紙一枚でもいっしょに持ち上げれば楽だ ; 27)
- 승어가 뛰니까 망둥이도 뛴다 (ボラが跳ねればハゼも跳ねる ; 27)
- 아니 뎌 굴뚝에 연기 날까 (焚かぬ煙突から煙が上がろうか ; 27)
- 열 번 찍어 안 넘어가는 나무 없다 (十回切りつけられて倒れない木はない ; 27)
- 열 손가락 깨물어 안 아픈 손가락 없다 (十指のどの指を噛んでも痛くない指はない ; 27)
- 하나를 보면 열을 안다 (一を見れば十を知る ; 27)

고래 싸움에 새우 등 터진다 (鯨の喧嘩に小海老の甲羅が裂ける ; 26)

구슬이 서 말이라도 꿰어야 보배 (珠玉が三斗あっても紐に通してこそ宝 ; 26)

낮말은 새가 듣고 밤말은 쥐가 듣는다 (昼間の話は鳥が聞き夜の話は鼠が聞く ; 26)

될성부른 나무는 떡잎부터 알아본다 (見込める木は餅葉のころから見分けがつく ; 26)

뱀새가 황새 걸음을 걸으면 가랑이가 찢어진다 (ダルマエナガ〔鳥の一種〕がコウノトリの歩き方をまねると股が裂ける ; 26)

싸움은 말리고 흥정은 붙이랬다 (喧嘩はやめさせ取引は斡旋せよと言った ; 26)

열 길 물 속은 알아도 한 길 사람 속은 모른다 (十尋の水底はわかっても一尋の人の胸底はわからない ; 26)

평양 감사도 저 싫으면 그만이다 (平壤監司も自分がいやならそれまでだ ; 26)

가는 말이 고와야 오는 말이 곱다 (往く言葉が美しくして還る言葉が美しい ; 25)

같은 값이면 다홍치마 (同じ値なら薄紅チマ ; 25)

개똥도 약에 쓰려면 없다 (犬の糞も薬にしようものならない ; 25)

까마귀 날자 배 떨어진다 (烏が飛立つや梨が落ちる ; 25)

꼬리가 길면 밟힌다 (尾が長ければ踏まれる ; 25)

누울 자리 봐 가며 발 뻗는다 (寝転ぶ所を見ながら足を伸ばす ; 25)

돌다리도 두들겨 보고 건너라 (石橋も叩いてみて渡れ ; 25)

천냥 빚도 말로 갚는다 (千兩の借金も言葉で返す ; 25)

밑 빠진 독에 물 붓기 (底の抜けた甕に水を注ぐ ; 25)

빈 수레가 더 요란하다 (空の車をもっとうるさい ; 25)

원수는 외나무 다리에서 만난다 (仇敵は一本橋の上で出会う ; 25)

윗물이 맑아야 아랫물이 맑다 (上の水清くしてこそ下の水澄む ; 25)

종로에서 뺨 맞고 한강에 가서 눈 흘킨다 (鍾路で頬をぶたれ漢江でにらみつける ; 25)

천리길도 한 걸음부터 (千里の道も一歩から ; 25)

콩 심은 데 콩나고 팥 심은 데 팥 난다 (豆植えたところに豆が生え小豆植えたところに小豆生える ; 25)

가까운 남이 먼 일가보다 낫다 (近い他人が遠い一家よりましだ ; 24)

가는 말에 채찍질 (行く馬に鞭を打つ ; 24)

가랑비에 옷 젖는 줄 모른다 (小雨に降られても濡れたことを知らない ; 24)

간에 가 붙고 쓸개에 가 붙는다 (肝臓に付いたり胆嚢に付いたりする ; 24)

고추는 작아도 맵다 (唐辛子は小さくても辛い ; 24)

늦게 배운 도둑이 날 새는 줄 모른다 (遅く覚えた泥棒は夜が明けるのもわからない ; 24)

말은 해야 맛있고, 고기는 씹어야 맛이다 (話はしてこそ味があり肉は噛んでこそ味が出る ; 24)

물에 빠진 놈 건져놓으니까 내 붓집 내라 한다 (水に溺れたやつを引き上げてやったら

- 自分の風呂敷包みを返せと言う ; 24)
- 미운 놈 떡 하나 더 준다 (憎い者に餅を一つよけいにやる ; 24)
- 바늘 구멍으로 황소 바람 들어온다 (針ほどの穴から強い隙間風が入る ; 24)
- 범에게 물려 가도 정신만 차리면 산다 (虎に啜えられても氣を確かに持てれば生きられる ; 24)
- 세 살 버릇 여든가지 간다 (三歳の時の癖が八十歳まで続く ; 24)
- 못된 송아지 엉덩이에 뿔난다 (出来そこないの子牛の尻に角が生える ; 24)
- 양지가 음지되고 음지가 양지된다 (日なたが日陰になり日陰が日なたになる ; 24)
- 오르지 못할 나무는 쳐다보지도 말아라 (登れない木は仰ぎ見てもいけない ; 24)
- 원숭이도 나무에서 떨어진다 (猿も木から落ちる ; 24)
- 입은 비뚤어져도 말은 바로 해라 (口は歪んでも言葉は正しく言え ; 24)
- 지렁이도 밟으면 꿈틀한다 (ミミズも踏めばうごめく ; 24)
- 젊어 고생은 사서도 한다 (若いときの苦労は買ってでもする ; 24)
- 가는 방망이 오는 홍두깨 (行く棍棒に返ってくる綾巻 ; 23)
- 강물도 쓰면 준다 (川の水も使えば減る ; 23)
- 똥 묻은 개가 겨 묻은 개 나무란다 (糞のついた犬が糞のついた犬を貶す ; 23)
- 곡식 이삭은 잘 될수록 고개를 숙인다 (稲穂は実るほど頭の下がる ; 23)
- 구더기 무서워 장 못 담글까 (蛆虫が怖くて醬油が仕込めないか ; 23)
- 남의 눈에 눈물 내면 제 눈에는 피가 난다 (人の目に涙を流させれば自分の目には血が出る ; 23)
- 낫 놓고 기역자도 모른다 (鎌を目の前に置いて「」の字も分からない ; 23)
- 부뚜막의 소금도 집어 넣어야 짜다 (かまどのそばにある塩もつまんで入れてこそ塩辛い ; 23)
- 소도 언덕이 있어야 비빈다 (牛も坂道があればこそ擦りつける ; 23)
- 실뱀 한 마리가 온 바닷물을 흐린다 (キセスジヘビー匹が一帯の海を濁らせる ; 23)
- 사람은 헌 사람이 좋고 옷은 새 옷이 좋다 (人は昔なじみがよく服は新しいのがいい ; 23)
- 자라 보고 놀란 가슴 솥뚜껑 보고 놀란다 (スッポンを見て驚いた者が釜のふたを見て驚く ; 23)
- 자빠져도 코가 깨진다 (倒れても鼻が折れる ; 23)
- 참새가 방앗간을 그냥 지나랴 (雀が精米所を素通りしようか ; 23)
- 참새가 죽어도 짹한다 (雀が死んでもチュンと鳴く ; 23)
- 콩으로 메주를 쏜다 해도 곧이 듣지 않는다 (豆で味噌麴をつくるといっても信じない ; 23)
- 가랑잎이 솔잎더러 바스락 거린다고 한다 (カシワの葉が松葉に向かってかさかさと言音を出すという ; 22)
- 개도 닳새가 되면 주인을 안다 (犬も五日飼えば主人を見分ける ; 22)
- 귀에 걸면 귀걸이 코에 걸면 코걸이 (耳にかければ耳輪鼻にかければ鼻輪 ; 22)
- 급하다고 바늘 허리에 실 매어 쓸까 (急ぐからといって針の腰に糸を結んで使えようか ; 22)

눈치가 빠르면 절에 가도 새우젓 얻어 먹는다 (目ざとければ寺へ行っても魚の塩辛をも
らって食べる ; 22)

도끼 자루 썩는 줄 모른다 (斧の柄が腐るのも知らない ; 22)

똥 누러 갈 적 마음 다르고 올 적 마음 다르다 (糞をしに行くときの心は糞をして帰っ
て来るときの心と異なる ; 22)

무당이 제 귀 못하고 소경이 저 죽을 날 모른다 (巫女は自分の厄払いができず盲人は自
分の死ぬ日を知らない ; 22)

송충이가 갈잎을 먹으면 떨어진다 (マツケムシが柏の葉を食べたら落ちる ; 22)

쥐구멍에도 별들 날이 있다 (鼠の穴にも陽の差す日がある ; 22)

참을 인자 셋이면 살인도 피한다 (シノブの忍の字が三つあれば殺人をも避ける ; 22)

6. おわりに

日本にはことわざを素材にした「いろはガルタ」「たとえガルタ」「犬棒ガルタ」などと呼ばれる伝統的な子供の遊戯がある。この遊びを通じて日本の子供達はことわざに馴染んできたと言われる。韓国にはこれに当たるようなものがないことを残念に思っていたのだが、韓国の子供達はコンピュータの入力練習を通じてことわざに接していることに思い当たった。考えて見れば、これはことわざに馴染む上でカルタよりもはるかに強力である。カルタのような優雅さはないかもしれないが、カルタがせいぜい 50 件程度のことわざを素材することしかできないのに対して、ハングル入力練習教材はその 10 倍以上のことわざに近づけることができる。しかも、毎年ほとんどすべての子供達がこの教材を通じてことわざに接するのである。誰が思いついたことなのか知らないが、ことわざの伝承にとってこれ以上巧妙な方法はないのではないかな。

しかし、本稿に紹介したように、ハングル入力練習教材の実態を見ると、ことわざの選択においても扱いにおいてもかなりずさんな面がみられる。伝統的価値観の急激な衰退の一環として、ことわざもまた色あせつつあり、特に若年層のことわざ離れが急激に進んでいると言われる。この流れを食い止める極めて有効な手段であるということを考えれば、ハングル入力練習教材で素材とされることわざについて、専門家の意見を反映するなど、より慎重な扱いが必要ではないかと思われる。

註

- 1) 2004 年の認知度調査の詳細およびことわざスペクトル、PS リストなどの概念については鄭芝淑 (2005, 2007, 2008a) を参照のこと。
- 2) 漢字や綴りの間違いなどは 0.5 点として採点した。
- 3) 同一のことわざの異形とは、意味内容が同じで表現形式間に要素の省略、添加、置換え、順序

換え、文体の変化などの関係があるものを指す。代表形とは、異形のうち最もよく使われる形式のことである。詳しくは鄭芝淑（2007, 2008b）を参照のこと。

引用文献

鄭芝淑（2005）「日本と韓国のことわざ認知度—ことわざスペクトル・リストに基づく調査」『多元文化』第5号，pp.241-252

鄭芝淑（2007）『日本と韓国のことわざの比較研究 — ことわざスペクトルと比較ことわざ学 —』（名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士学位論文）

鄭芝淑（2008a）「比較ことわざ学の可能性」『言語文化論集』第29巻2号，pp.433-447

鄭芝淑（2008b）「ことわざの異形」『多元文化』第8号，pp.349-364

鄭芝淑（2009）「日本のことわざの認知度について」『言語文化論集』第30巻1号，pp.181-196